

(平成24年9月県議会定例会)

平成23年度

「教育に関する事務の管理及び執行状況」
の点検及び評価報告書 (案)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条の規定に基づき議会に提出

山形県教育委員会

目 次

1	教育委員会の活動状況.....	1
2	教育委員会の事務の点検・評価.....	4

1 教育委員会の活動状況

山形県教育委員会の活動状況

教育委員会は、知事が議会の同意を得て任命した、人格が高潔で教育、学術、文化に関し識見を有する6名の委員で構成される合議制の機関である。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)に規定する教育に関する事務に関して、教育委員会会議において審議するとともに、教育現場の実情を把握するため、教育関係者等から幅広く意見を聴く「教育懇談会」、教育施策に関する基本的な方針及び当面の検討課題等について意見交換を行う「教育委員協議会」等の活動を行っている。

1 教育委員会の開催

- (1) 山形県教育委員会会議規則(昭和35年4月教育委員会規則第4号)により、毎月1回定例会を開催することとしているほか、委員長が必要と認めた場合において、臨時会を開催することとしている。
- (2) 教育委員会会議の内容について、県ホームページに会議の概要及び会議資料(秘密会の議決があった議案を除く)を公開し、県民の理解が得られるよう努めた。
なお、平成23年度の開催状況は以下のとおり。

第952回(23.4.25)

報告

- (1) 東日本大震災に係る被災地域の児童生徒の受け入れ状況について
- (2) 酒田特別支援学校の開校について
- (3) 平成23年3月高等学校卒業者の就職内定状況について

議事

- (1) 地方行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見に係る臨時専決処理の承認について
- (2) 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館の指定管理者の募集について
- (3) 山形県立図書館協議会委員の委嘱(任命)について
- (4) 平成23年度山形県教科用図書選定審議会委員の委嘱(任命)について
- (5) 山形県産業教育審議会委員の解任及び委嘱(任命)について
- (6) 教職員の人事について
- (7) 山形県職員等に対する退職手当支給条例の規定に基づく退職手当の支給制限について

第953回(23.5.25)

報告

- (1) 東日本大震災に係る被災地域の児童生徒の受け入れ状況について

議事

- (1) 山形県立学校職員の勤務時間及び休暇等に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定に係る臨時専決処理の承認について
- (2) 地方行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見に係る臨時専決処理の承認について

第954回(23.6.17)

報告

- (1) 山形県生涯学習・社会教育振興計画の策定について

協議

- (1) 懲戒処分の公表のあり方について

議事

- (1) 平成24年度山形県立高等学校の入学者募集について
- (2) 山形県立博物館協議会委員の委嘱(任命)について
- (3) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見について
- (4) 山形県立高等学校管理運営規則の一部改正について

第955回(23.7.25)

報告

- (1) 山形県立学校における平成24年度使用教科用図書について
- (2) 平成24年度公立高等学校推薦入学者選抜の推薦要件及び選抜規準等の公表について

協議

- (1) 懲戒処分の公表のあり方について

議事

- (1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見に係る臨時専決処理の承認について
- (2) 教職員の人事について
- (3) 山形県職員等に対する退職手当支給条例の規定に基づく退職手当の支給制限について

第956回(23.8.24)

報告

- (1) 平成23年度全国高等学校総合体育大会の結果について

議事

- (1) 山形県立特別支援学校の小学部及び中学部における平成24年度使用教科用図書の採択について
- (2) 山形県立高等学校及び山形県立特別支援学校高等部、高等部のみを置く特別支援学校に

おける平成 24 年度使用教科用図書の採択について

- (3) 平成 24 年度山形県公立学校教職員人事異動方針について
- (4) 教職員の人事について
- (5) 山形県職員等に対する退職手当支給条例の規定に基づく退職手当の支給制限について

第957回(23.9.14)

報告

- (1) 山形県子ども読書活動推進計画(第2次)の策定について
- (2) 第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会の会期について
- (3) 第38回東北総合体育大会の成績について

議事

- (1) 山形県高等学校奨学金貸与条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
- (2) 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- (3) 平成 23 年度山形県教育功労者表彰被表彰者の決定について
- (4) 地方行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づく意見について

第958回(23.10.26)

報告

- (1) 平成24年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について
- (2) 第66回国民体育大会(山口国体)山形県選手団の成績について

議事

- (1) 山形県うきたむ風土記の丘考古資料館の指定管理者の指定について
- (2) 山形県文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
- (3) 山形県立高等学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について
- (4) 平成 25 年度山形県立高等学校入学選抜基本方針の決定について
- (5) 平成 24 年度山形県立高等学校及び山形県立特別支援学校の高等部の入学募集について
- (6) 山形県産業教育審議会委員の解任及び委嘱について
- (7) 教職員の人事について

第959回(23.12.21)

報告

- (1) 平成24年度県立米沢工業高等学校専攻科入学選抜第2次募集について
- (2) 平成24年3月新規高等学校卒業予定者の就職内定状況(11月末)について
- (3) 平成 24 年度当初予算要求の概要について

議事

- (1) 学校教育法施行細則の一部を改正する規則の制定について
- (2) 山形県子ども読書活動推進計画(第2次)の策定について
- (3) 山形県指定有形文化財の指定について
- (4) 山形県指定無形民俗文化財の指定について
- (5) 山形県指定史跡の指定について
- (6) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づく意見に係る臨時専決処理の承認について

第960回(24.1.25)

報告

- (1) 平成24年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況(12月末現在)について
- (2) 田川地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会の「中間報告書」及び地域説明会について
- (3) 第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会のテーマ(愛称)・スローガンの募集について
- (4) 第 30 回全国都道府県対抗女子駅伝(1/15)、第 17 回全国都道府県対抗男子駅伝(1/22)における山形県選手団の成績について
- (5) 第 67 回冬季国体(岐阜県)の山形県選手団について

議事

- (1) 教職員の人事について

第961回(24.2.15)

報告

- (1) 平成24年3月新規高等学校卒業予定者の就職内定状況(1月末)について
 - (2) 第67回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会山形県選手団の成績について
 - (3) 平成23年度全国高等学校総合体育大会第61回全国高等学校スキー大会山形県選手団の成績について
 - (4) 第67回国民体育大会冬季大会スキー競技会山形県選手団について
- 議事

- (1) 山形県指定有形文化財の指定について
- (2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づく意見について

第962回(24.3.15)

報告

- (1) 平成24年3月新規高等学校卒業予定者の就職内定状況(2月末)について

- (2) 最上地区の県立高校再編整備計画（案）について
- (3) Y A M A G A T A ドリームキッズ第3期生の決定について
- (4) 第67回国民体育大会冬季大会山形県選手団の成績について

議事

- (1) 公立高等学校の廃止の認可について
- (2) 山形県立高等学校体育施設の開放に関する規則の一部を改正する規則の制定について
- (3) 山形県教育委員会教育長の任命について
- (4) 教育委員会職員の人事について
- (5) 教職員の人事について

- (6) 山形県立高等学校の授業料等徴収条例の一部を改正する条例案（23.11.24）
- (7) 最上地区の高校再編整備について（23.11.24）
- (8) 平成24年度当初予算の概要について（23.11.24）
- (9) 避難児童生徒の在籍予定調査結果について（24.3.6）
- (10) 新たな教師のゆとり創造の取組みについて（24.3.6）
- (11) 平成24年度教育委員会事務処理体制の主な改正点について（24.3.6）
- (12) 平成24年度教育委員会（教員）の主な人事異動について（24.3.6）

第963回（24.3.26）

議事

- (1) 山形県教育委員会職員被服貸与規程の一部を改正する規則の制定について
- (2) 教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任し又は専決させる規則の一部を改正する規則の制定について
- (3) 山形県教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について
- (4) 職員の駐在制度に関する規則の一部を改正する規則の制定について
- (5) 山形県立高等学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について
- (6) 教職員の人事について
- (7) 山形県教育委員会教育長の給料月額決定について

2 教育懇談会の開催

委員が、教育関係者をはじめとする県民から幅広く意見を聴き、教育現場の実情把握に努め、それらを教育施策に反映させることを目的として例年開催しているが、平成23年度は東日本大震災の影響等を考慮し開催しなかった。

3 教育委員協議会の開催

当面する検討課題等について意見交換を行った。

- (1) 平成25年度（平成25年3月）公立高等学校一般入学者選抜で実施する調査書の評定と学力検査の成績の比率について（23.11.24）
- (2) 平成24年度山形県公立高等学校入学者選抜に係る推薦入学者選抜実施校の募集人員等について（23.11.24）
- (3) 平成24年3月新規高等学校卒業予定者の就職内定状況（10月末）について（23.11.24）
- (4) 山形県スポーツ推進審議会委員の委嘱（任命）について（23.11.24）
- (5) 平成23年度山形県一般会計補正予算のうち教育委員会に関する事務に係る部分

（23.11.24）

2 教育委員会の事務の点検・評価

(基本方針) 「いのち」を大切にし、豊かな心と健やかな体を育てる

(重点施策) 1 家庭・学校・地域が連携して「いのち」をはぐくむ

施策(事業)の概要	事業実施状況	目標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 「いのちの教育」推進事業 体験活動や読書活動を通して、子どもたちとかわるボランティアを「いのちの教育サポーター」として養成するとともに、その活動の充実を図るため、実践の場にコーディネートする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校関係者やサポーター、その他関係機関による「ネットワーク会議」を県内4ブロックで開催し、サポーターの養成、活用等について検討 ・ 読書活動や様々な体験活動のスキルアップ研修会を通して養成された「いのちの教育サポーター」が、読み聞かせ等のボランティアとして活動(276回) 	<p>「いのちの教育サポーター」等が学校や公民館等において、子どもと共に活動する回数:250回</p>	<p>達成 276回 実施主体を強化して取り組んだ結果、新たに205名のサポーターが養成されるとともに、活動回数も目標を上回った。</p>	<p>サポーターの活動場所がある程度固定化している場合が多いことから、実践活動が広く展開されるよう、地域での周知を強化し、新たな実践の場の創出へとつなげていく。</p>
<p>(2) 児童生徒の輝く「いのち」実践推進事業 「生命の大切さ」について学ぶプログラム等を作成し、児童生徒が「生命」の尊さやつながりを実感できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生命尊重」、「生命を守る」ことに関する幼児期から高等学校までの学習プログラムを作成 ・ 本県に伝わる「生命尊重」に関連した文化や民話・昔話等の学習資料の収集・作成 ・ 「いのち」の大切さを感じることでできる絵本を、県内全ての小・中学校を対象に巡回 	<p>「自分には良いところがある」と思う児童生徒の割合(県調査) 小学校6年生:79% 中学校3年生:71%</p>	<p>概ね達成 小学校6年生:81% 中学校3年生:68% 第5次山形県教育振興計画の「いのちの教育」に係る取組みの中で、児童・生徒の自尊感情を育む活動が展開されていることが、少しずつ成果として表れてきている。</p>	<p>今後も生命や生き方に係る学習の充実を図り、「自他のよさを認め合い、生かし合う」児童・生徒の育成を目指していく。</p>
<p>(3) 家庭教育推進事業 家庭の教育力低下に対し、社会全体で支援するため、県と地域(市町村)の役割を明確にし、地域で支え合う家庭教育支援の総合的なしくみづくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ やまがた子育て講座を25市町村178箇所で開催(9,644人参加) ・ 企業等での家庭教育出前講座を県内22箇所で開催(971人参加) ・ 家庭教育支援フォーラムを県内2箇所で開催(125人参加) 	<p>家庭教育講座を実施している市町村数:35市町村</p>	<p>概ね達成 28市町村 親に対する家庭教育に関する学習機会の提供や家庭教育支援者の資質向上のための研修会を実施した結果、家庭教育支援体制の充実が図られた。</p>	<p>今後も継続的な家庭教育支援の充実を図るため、参加者主体の講座内容や形態等を工夫し、多くの親に対して家庭教育に関する講座に参加できる機会の提供を目指していく。</p>

<p>(4) 幼保小の連携強化による幼児期の教育の充実 幼稚園・保育所等と小学校の連携を強化し、子どもたちにとって緩やかな接続を実現することによって、幼児教育のまとめの時期及び小学校の入門期の教育を充実させ、子どもたちの健やかな成長をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小連携スタートプログラムに基づき、幼保小連携の推進普及について協議し、モデルとなる地区の取組み等、各機関に発信できる内容を協議 ・ 県内各市町村、小学校、幼児教育機関等で開催する、幼保小連携に関する研修会にアドバイザーを派遣したほか、幼稚園・小学校教諭・保育士による合同研修会を実施 	<p>幼保小連絡協議会を開催している小学校の割合：84%</p>	<p>概ね達成 81% 幼保連携研修会にアドバイザーを派遣して活性化を図ったり、幼保小の教員・保育士や行政担当者による意見交換の場の設置等、市町村の必要に応じて研修を行った。</p>	<p>今後は、モデルとなる地区の取組等について発信し、各施設や学校での普及啓発を図っていく。</p>
<p>(5) 幼児共育推進事業 人格形成の基礎を培う上で、きわめて重要な幼児期の子どもたちを、「家庭」「幼稚園・保育所等」「地域」が連携し、共に育む幼児共育（ようじともいく）を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児共育ふれあい活動を県内4地区のNPO等に委託し実施（延べ2,680人参加） ・ 幼児共育合同セミナーを県内2箇所で開催（93人参加） ・ ふれあい活動プログラム開発を県内4地区で実施（延べ2,851人参加） 	<p>ふれあい活動プログラムの開発：4地区</p>	<p>達成 幼児共育事業への参加者数は、延べ5,624人となった。</p>	<p>新たに開発した活動プログラムによる幼児共育の実践的な活動を県内全域に拡充していく。</p>

(重点施策) 2 豊かな心と健やかな体を育てる

施策(事業)の概要	事業実施状況	目 標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 読書活動総合推進事業 幼児期からの読み聞かせや、読書の習慣化、学校・家庭・地域等が連携した読書活動を、総合的に推進する。</p>	<p>「山形県子ども読書活動推進計画(第2次)」を策定し、それに基づく読書活動が各機関で推進されるように、学校図書館支援員やアドバイザーを派遣や、訪問指導や読書活動推進フォーラムを実施</p>	<p>子ども読書活動推進計画を作成している市町村数： 10市町村</p>	<p>× 未達成 7市町村</p>	<p>山形県子ども読書活動推進計画(第2次)を策定し、H24年度からH28年度までの5年間の推進計画を示した。今後は、第2次計画のもとに、子どもの読書活動の推進状況を評価・検証する。</p>
<p>(2) 生徒指導・相談体制の充実 問題行動等の未然防止や早期発見、早期解決のため、いじめ・不登校、暴力行為等に対応するスクールカウンセラーや教育相談員、スクールソーシャルワーカー(子どもふれあいサポーター)等を配置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上のための「いじめ・不登校発生予防研修会」の実施 ・生徒指導・進路指導総合推進事業として、2市でのモデル的取組の実施 ・適応指導教室を中心にした不登校児童生徒(義務教育を終了した子どもを含む)への支援 ・教育相談員等の配置 スクールカウンセラー(55校)、エリアカウンセラー(12校)、教育相談員(40校)、スクールソーシャルワーカー(子どもふれあいサポーター)(20校)等 	<p>不登校児童生徒出現率(学校基本調査) 小中学校合計出現率： 0.97%</p>	<p>達成 0.91% 小学校：0.24 0.24% 中学校：2.32 2.17% 小学校では変化が見られないが、中学校では大きく減少した。</p>	<p>今後は、さらに組織的に対応していけるよう学校体制づくりについて指導していく。</p>
<p>(3) いのち輝く食育推進事業 学校をあげた計画的な食育や、食育の実践の一層の推進を図るため、「食育推進体制の整備」及び「食育の実践活動の支援」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における食育を推進するため、学校食育推進会議及びフォーラムを実施 ・朝食欠食率の更なる減少に向け、県内全小中学生に対し、啓発のための食育パンフレットを配布 ・栄養教諭が配置された市町村をモデル地域に指定し、学校・家庭・地域が一体となった「栄養教諭を中核とした食育推進事業」を実施 	<p>児童生徒の朝食欠食率 小学校6年生：7.9% 0.4% 中学校3年生：10.9% 0.6%</p> <p>は全く朝食を食べていない児童生徒の朝食欠食率</p>	<p>概ね達成 小学校6年生：9.0% 0.2% 中学校3年生：13.0% 0.8%</p> <p>朝食欠食率のうち全く食べていない児童生徒の割合は低減傾向にあるものの、目標値を達成していない項目もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも「いのち輝く食育推進事業」を効果的に実施し、学校・家庭・地域が一体となった食育を推進する。 ・栄養教諭の学校等への更なる配置拡大等により、学校における食育を一層推進する。

<p>(4) 県立高等学校図書館機能充実事業</p> <p>指定した高校の学校目標実現に向けて、計画的に図書や備品などを購入し、学校図書館機能を充実させるため、「地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）」の配当により、図書館機能の充実を図る。</p>	<p>学校図書館の学習機能充実のための図書購入、電子図書の活用方法の検討、学校目標の実現に向けた図書の購入、学校図書館の環境整備、設備の充実にに向けた支援等を実施</p>	<p>学校図書館機能の充実 (県進連加盟校9校)</p>	<p>達成</p> <p>各高校において、学校目標の実現に向けた適正な図書購入や備品の整備により、学校図書館の充実が図られた。</p>	<p>平成24年度は11校を指定。各学校から提出される事業計画を適正に審査し、趣旨にあった整備がなされるよう支援する。</p>
--	---	----------------------------------	---	---

(基本方針) 「まなび」を通して、自立をめざす

(重点施策) 3 関心と意欲を高め、能力を伸ばす

施策(事業)の概要	事業実施状況	目標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 少人数学級編制等推進事業</p> <p>子どもと向き合う教育の充実・強化を図り、コミュニケーションを軸とした教育を展開し、思考力・判断力・表現力に重点をおいた学力の向上と良好な人間関係の構築をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが精一杯考え合い、表現し合う授業の実現のため、授業改善プロジェクト対象校(15校)における「少人数学級のよさを生かした授業」の取組み 担任の資質向上及び目指す教育の実現のため、担任力育成研修会(2回)を実施 「さんさん」ガイドの作成・ホームページへの掲載、「やまがたの子ども学びを考えるフォーラム」の開催を通し、優れた実践等を普及 	<p>将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(県調査)</p> <p>小学校6年生:87%</p> <p>中学校3年生:75%</p>	<p>概ね達成</p> <p>小学校6年生:87.7%</p> <p>中学校3年生:72.6%</p> <p>学校訪問や保護者・教員・子どもへの意識調査、学力やいじめ・不登校の調査等をもとに、各学校の状況把握に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「担任力育成研修プログラム」を作成し(平成24年度予定)、県教育センターの研修において活用する(平成25年度から)。 少人数学級編制再構築会議を開催し、外部・有識者の考えを聴取したうえで、今後のプランの在り方について検討する。
<p>(2) キャリア教育推進事業</p> <p>高校生のフリーター志向や早期離職者を減少させるため、望ましい職業観・勤労観を醸成するとともに、主体的に進路を選択する能力を高め、自己実現を図るためのキャリア教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ推進事業(インターンシップ体験生徒数 延べ3,937人、関係事業所延べ2,086事業所) 社会人講師招聘事業(受講生徒数 延べ1,115人、講師数 21人) 	<p>高校生の県内就職内定率(県調査):77%</p>	<p>達成</p> <p>77%</p> <p>県外企業からの求人は減少したが、県内企業からの求人が増加し、県内への定着環境が改善された。</p> <p>また、学校でのキャリア教育の取組み、関係機関や企業の働きかけにより、生徒が地元の企業に目を向けるようになり、地元への就職が促進された。</p>	<p>今後も、地域全体で生徒を育成する気運の醸成を図っていくほか、グローバル化の視点から本県産業界を学習し、県内産業の担い手を育成しようとする「山形高校生フロンティア事業」を計画し、県内企業への関心を高める。</p>

(重点施策) 4 特別な教育的ニーズに応じた「まなび」を支援する

施策(事業)の概要	事業実施状況	目 標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 特別支援教育推進事業</p> <p>障害のある幼児への早期からの相談事業や適正就学支援事業、小・中・高等学校に在籍する児童生徒への指導に関する相談や助言等、市町村や高等学校の体制整備を通して、特別支援教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立特別支援学校の要請に応じて、公開授業研究会等における指導助言 ・ 幼児を対象にした地域教育相談窓口等の設置(県内5か所)、幼稚園・保育所・小・中・高等学校からの要請に応じた巡回相談を実施 ・ 特別支援教育コーディネーター養成研修会等において、個別の指導計画の必要性と作成方法について研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「一人ひとりに応じた授業を実施している」と評価している保護者の割合(保護者アンケート):90% ・ 公立幼・小・中・高における「個別の指導計画」作成率:72% 	<p>概ね達成 89.3%</p> <p>学校からの要請に応じ、授業研究会等で指導助言を行った結果、各学校の授業充実に向けた気運が図られている。</p> <p>達成 79.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続して、一人ひとりに応じた指導方法の工夫等の助言を行う。 ・ 今後とも研修会を継続し、個別の指導計画の作成と活用を推進する。
<p>(2) 特別支援学校再編・整備検討事業</p> <p>知的障がい特別支援学校入学者の増加等、特別支援学校に係る諸課題に対応するため、外部有識者を含む「特別支援学校再編・整備検討委員会」において、今後の特別支援学校の再編・整備のあり方を検討する。</p>	<p>「特別支援教育再編・整備検討委員会」を3回実施し、知的障がい特別支援学校の整備や高等部のみを置く特別支援学校のあり方等について意見を集約</p>	<p>「特別支援教育再編・整備検討委員会」の開催(3回)</p>	<p>達成</p> <p>検討委員会を3回開催し、知的障がい特別支援学校の整備のあり方について意見を集約している。</p>	<p>平成24年度検討委員会を2回開催し、最終報告書を作成する。</p>
<p>(3) 医師人材育成推進事業</p> <p>医師不足の課題を抱える本県の現状に鑑み、医学部医学科をめざす生徒を支援し、本県の医療を担う人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成戦略事業 TOP戦略会議、教科指導力向上事業、進学指導連絡協議会の開催 ・ スーパー医進セミナー 予備校講師による特別講義 地域医療従事者、山形大学医学部教授による講演 医療現場見学 医学部医学科学生による講話 	<p>現役医学部医学科合格者数:30人</p>	<p>×未達成</p> <p>現役合格者数:13人(昨年度比11人の減少)</p> <p>なお、6年間にわたるセミナーの開催による医学部志願者数の増加もあり、過年度卒も含めると39人(前年度比14人減だが、一昨年度比3人増)となり、意志を最後まで貫き、浪人しても医学部合格を目指す生徒が増えている。</p>	<p>生徒数が減少している状況にあり、医学部医学科をはじめとする難関大学を目指す生徒を増加させるため、24年度から「山形の未来をリードする人材育成事業」を実施し、各高等学校の教科指導力を向上させるなどの対応により、高い学力を身に付けた生徒の育成を推進していく。</p>

<p>(4) 国際化推進事業</p> <p>英語コミュニケーション能力向上等のための英語教育の充実を図るため、4技能(「聞く」「読む」「話す」「書く」)にわたるバランスのよい英語力が求められる実用英語技能検定資格取得支援、年間を通じた英語授業改善や、先進的な英語教育の実践研究を通し、生徒の英語によるコミュニケーション能力と学力を伸長させるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ英検 前年度の英検受験実績校において、英検の対策研究や、生徒への指導を実施 ・ 英語授業改善塾 中堅英語教員が授業改善技術を身に付けながら、県内の英語教員が共通に抱える課題解決のための指導モデルを開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英検2級合格者数：300人以上 ・ 準2級合格者数：1,200人以上 	<p>概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英検2級受験者1,300人のうち合格者264人 ・ 英検準2級受験者2,875人のうち合格者1,294人 	<p>引き続き、英語授業改善と生徒の英語学習に対する一層の動機付けを図りながら英語教育を充実させるため、24年度は、「スピーク・アウト」方式普及事業を核に、学力向上を目指す「山形の未来をリードする人材育成事業」において実施する。</p>												
<p>(5) 山形県産業担い手育成プロジェクト事業</p> <p>国の地域産業担い手育成プロジェクト(ものづくり、農業)事業後のパワーアップ事業として位置づけ、農業・水産・工業に関する学科を持つ高校を中心に、キャリア教育推進のための中長期に及ぶ生徒のインターンシップを実施する。同時に、専門教育に係る教員の授業力向上、地域連携のために社会力向上を図る技術研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期インターンシップ参加生徒数 農業50、水産9、工業31(合計90名) ・ 専門学科教員の技術研修者数 農業5、水産1、工業16(合計22名) 	<p>受入事業所による生徒評価の「著しく向上した」、「向上した」が、以下の3項目で75%(3/4)以上</p> <p>技術・技能 コミュニケーション 礼儀・マナー等</p>	<p>達成</p> <table border="1"> <tr> <td>農業</td> <td>水産</td> <td>工業</td> </tr> <tr> <td>73%</td> <td>75%</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>91%</td> <td>75%</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>91%</td> <td>78%</td> <td>91%</td> </tr> </table> <p>受入事業所の評価及び生徒による自己評価として概ね良好。</p>	農業	水産	工業	73%	75%	91%	91%	75%	91%	91%	78%	91%	<p>学校の夏期休業中が、農業分野では農閑期である場合も多く、期間を分散して行うことも考慮する必要がある。</p>
農業	水産	工業														
73%	75%	91%														
91%	75%	91%														
91%	78%	91%														
<p>(6) 県立高等学校特別支援教育推進事業</p> <p>発達障がい等、特別な支援を必要とする生徒が増加し、特別支援コーディネータの指名や研修など対策は進みつつあるなか、個別の支援充実により、落ち着いた学校生活を実現するため、特別支援教育支援員を配置する。</p>	<p>4人の支援員を4校に配置</p>	<p>特別支援教育支援員の個別支援の充実による、落ち着いた学校生活の実現</p>	<p>達成</p> <p>配置した学校からは、支援を必要とする生徒の生活が落ち着きをみせることで、学校全体の教育活動にも好影響をもたらすなど、学校全体への波及効果を高く評価する声が寄せられた。</p>	<p>特別な支援を要する高校の在学者が増加傾向にあるため、平成24年度は5人を配置(1人増員)して支援を実施する。</p>												

(重点施策) 5 時代の進展に対応した学校づくりを進める

施策(事業)の概要	事業実施状況	目 標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 特色ある特別支援学校づくり推進事業</p> <p>県立特別支援学校において、学校ごとの裁量予算を活用して、地域の方との交流を通じた地域との絆づくり、動物との触れ合い体験等、各校の相違工夫を活かした特色ある教育活動を展開することにより、活力あふれる主体的な学校づくりを推進する。</p>	<p>特別支援学校全12校において特色ある教育活動を実施し、各学校の事業実施計画と事業内容と自己評価について、県のホームページに掲載</p>	<p>各校の取組みについて、学校評議員等の評価を踏まえた校長による学校評価</p> <p>A・B評価： 70%以上の学校</p> <p>C評価(概ね満足)以上： 全ての学校</p>	<p>概ね達成</p> <p>A・B評価： 41.7%</p> <p>C評価以上： 100%</p>	<p>C評価の学校の取組みを分析し、充実に向け助言していく。</p>
<p>(2) 特色ある高校づくり推進事業</p> <p>県立高等学校において、学校裁量予算により、校長のリーダーシップのもと、各校の課題解決に向けた特色ある教育活動を充実させ、県立高等学校の活力あふれる主体的な学校づくりを支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県立高校全51校(うち3校は分校)において、各校で立案した事業を実施 各学校で実施した事業概要を、県のホームページに掲載 	<p>各校の取組みについて、学校評議員等の評価を踏まえた校長による学校評価</p> <p>A・B評価： 70%以上の学校</p> <p>C評価(概ね満足)以上： 全ての学校</p>	<p>概ね達成</p> <p>A・B評価： 54.2%</p> <p>C評価以上： 95.8%</p> <p>48校中、A評価が6校、B評価が20校、D評価が2校</p> <p>D評価の2校は、いずれも「ものづくり」の事業が予定どおり進まなかったことによるものの、生徒の主体的な取組みが見られる。</p> <p>C評価とした学校は、事業の質的な効果や生徒の主体的な活動の創出などへの対応の不十分さを指摘している。</p>	<p>達成目標の高低や事業の難易といった学校差もあるが、C、D評価の学校に対しては、問題点の把握や支援を行い、次年度の効果的な事業推進を指導する。</p>

<p>(3) 県立高等学校将来構想推進事業 生徒数の減少や社会の変化等に対応しながら、本県高校教育の質と活力を保持するため、5教振期間中の高校再編整備計画を策定するとともに、県民の理解を得ながら計画を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から26年度の年次計画の策定とリーフレット等による周知 ・キャンパス制導入に向けた運営準備委員会による連携・交流内容の検討 ・村山産業高校(仮称)開校準備委員会の開催 ・東根中高一貫校(仮称)教育基本計画の策定 ・最上地区の検討委員会報告書を踏まえた再編整備計画の策定 ・田川地区の検討委員会による再編整備の方向性検討 	<p>地域説明会でのアンケートで「(概ね)理解した」と回答した割合：80%</p>	<p>達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川地区事前説明会(5月)：82% ・田川地区中間報告書説明会(2月)：86% 	<p>再編整備の対象となる高校が所在する地域への説明等を丁寧に行い、理解を得ながら進める。</p>
<p>(4) 酒田光陵高等学校(仮称)開校準備 酒田光陵高校及び酒田西高校定時制課程の平成24年4月開校に向けた諸準備を適切かつ円滑に推進するために、開校準備委員会及び下部組織として「開校準備室」を設置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開校準備委員会の開催 ・開校準備室の設置 ・校歌・校章の制作 ・成績処理システムの作成 ・情報科に係る研修及びアドバイザー連携の依頼等 	<p>平成24年度の入学定員の充足率：100%</p>	<p>おおむね達成 94.5% 学科によって若干の未充足はあるものの、ほぼ定員を満たした。</p>	<p>スケールメリットを生かした活力ある学校づくりを目指し、常に学校運営を見直し、改善を図る。</p>

(基本方針) 広い「かかわり」の中で、社会をつくる

(重点施策)6 人とのつながりの中で社会力を育成する

施策(事業)の概要	事業実施状況	目 標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 地域青少年ボランティア活動推進事業</p> <p>地域青少年ボランティア活動支援センターを設置し、県民に広く情報を提供するとともに、支援体制の整備及び研修・交流の機会を拡充しながら、人とのつながりの中で青少年の社会力の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Y Y ボランティアセミナーを、中高生を対象に県内 4 地区で実施 (参加者：196人) ・ Y Y ボランティアフェスティバル、体験・交流活動等を県内各地で実施 (延べ1,928人参加) 	<p>Y Y ボランティア活動参加者数：2,000人</p>	<p>達成 2,124人 ボランティア活動への参加が定着してきている。</p>	<p>今後も、地域青少年ボランティア活動の良さを体験する機会を充実し、認知度の向上及び活動の普及・啓発を図っていく。また、青年の家を中心として指導者養成や情報提供など総合的な支援を図る。</p>
<p>(2) 放課後子どもプラン推進事業</p> <p>地域社会の中で、放課後や学校外活動における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進し、地域の教育力の向上を図るため、教育委員会と子育て推進部が連携し、文部科学省「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省「放課後児童健全育成事業」を連携して実施する総合的な放課後対策事業「放課後子どもプラン」を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県推進委員会を年 2 回開催し、円滑な「放課後子どもプラン」の取組のための協力体制づくり等の検討を実施 ・ コーディネーター研修会を年 1 回開催し、コーディネーターや事業担当者の研修や情報交換等を実施 ・ 指導者研修会を開催し、「放課後子ども教室」指導者や「放課後児童クラブ」指導員の情報交換や実技研修等を実施 (4 教育事務所×2 回以上) ・ 市町村補助事業として「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の実施市町村に対し助成 (放課後子ども教室：123箇所、放課後児童クラブ：248箇所) 	<p>「放課後子ども教室」、 「放課後児童クラブ」のいずれかが設置されている小学校区の割合：79%</p>	<p>達成 80.5% 放課後や週末における子どもたちの健やかな居場所をつくろうとする気運の醸成が図られている。</p>	<p>放課後や週末の体験活動の充実を図るとともに、安全で安心な居場所としての「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の設置を促していく。</p>

(重点施策)7 地域文化が活きる人間性豊かな社会をつくる

施策(事業)の概要	事業実施状況	目標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 「山形の宝」育成事業 県民一人ひとりが身近な文化財を「山形の宝」として掘り起こし、磨き上げ、次世代に伝えるとともに、観光交流や地域活性化への活用を促進するため、地域文化財を「知り」、「守り」、「活かす」住民参加型の取組みを支援する。 また、「最上川流域の重要文化的景観」の選定申出に向けた取組みを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「山形の宝」イベント情報誌作成等により「知る」、地域のシンボリック文化財の保存修理への支援等により「守る」、「山形の宝」を活用した地域主体の観光交流や地域づくり活動への支援や案内人育成講座開催等により「活かす」取組みを推進 民族芸能団体間の情報交換や連携を図るため、民俗芸能懇話会やフォーラム、ワークショップを開催し、民俗芸能団体のネットワーク化を図り、観光交流につなげる取組みを推進 最上川流域の重要文化的景観選定について、市町村のまちづくりと密接に関連するため、市町村の申出を基本に、保存計画の策定を支援し、現地研修会及びセミナーを実施 			<ul style="list-style-type: none"> 「山形の宝」を観光交流など地域の活性化に活用しようとする地域における取組みを一層推進していく。 民俗芸能への若者参画による後継者確保などの課題解決に向け、民族芸能団体の連携した取組みを推進していく。 最上川流域の重要文化的景観選定について、平成24年度内に一部自治体の選定申出が見込まれ、今後も他の市町村の選定申出に向けた気運を拡大していく。
<p>(2) 山形ふるさと塾推進事業 親から子、孫の代へと「ふるさと山形」のよき生活文化や知恵、伝統芸能などの素晴らしい地域文化を県民同士が教え合い、学び合いながら、伝承していく活動を推進する。 また、子どもの郷土愛の醸成、地域コミュニティの活性化、地域文化の保存・伝承を通じ、子どもの社会力の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県推進協議会及び各地域推進協議会において、教育委員会と関係部局との連携、支援等を検討及び協議 山形ふるさと塾アーカイブスにおいて、事業及び賛同団体の紹介、自作視聴覚教材の優秀作品を掲載 市町村総合交付金により子どもたちに地域の文化等を伝承する活動を支援 「山形ふるさと塾活動賞」の表彰や、山形ふるさと塾だより(2回)の発行等活動賛同団体の交流・ネットワーク化を目指し、山形ふるさと塾フェスティバルや、各地区語り部研修会等を実施 	<p>山形ふるさと塾活動賛同団体：270団体</p>	<p>達成 271団体 フェスティバルやふるさと塾だよりなどを通じた普及啓発の成果が現れてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、伝承活動の県内4地区独自展開の仕組みづくりを推進していく。

(重点施策)8 活力ある健全な社会づくりに貢献するスポーツを振興する

施策(事業)の概要	事業実施状況	目 標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 競技スポーツの強化</p> <p>感動と活力を生み出す力強いスポーツの推進を図るため強化事業を実施し、各種全国大会で活躍できる選手を育成するとともに、国民体育大会において全国20位台の成績を確保するため、各競技団体等への支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山形県の競技力向上に関わる強化方針等を検討する競技スポーツ強化戦略会議及びコーチングスタッフ会議を開催 競技スポーツ強化事業(基礎強化事業、トップアスリート強化事業等)を実施 県民の関心が高く期待の大きな駅伝競走特別強化事業を実施 高校野球の強化を図るため、中学生対象の少年野球強化育成事業を実施 スポーツ医・科学分野の推進を図るため、県立山形中央高校体育科生を対象にトレーナー養成講座を実施 	<p>国民体育大会天皇杯順位 20位台</p>	<p>×未達成 42位</p> <p>団体競技を中心に得点に結び付けられず、目標とする全国20位台を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた強化事業に加え、国体直前合宿等の事業を展開し、天皇杯得点獲得を見据えた強化計画を構築していく。
<p>(2) 競技スポーツパワーアップ特別強化事業</p> <p>国体終了後、次年度国体に向けたオフシーズンの特別強化や、指導者の資質向上のため県内指導者を全国トップレベルのチームや優秀指導者のもとへ派遣する事業等に対して支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 競技団体を18競技に特化した国体終了後のオフシーズン強化事業を実施 各競技団体の指導者を全国トップレベルで活躍する優秀指導者やチームへ派遣 			<ul style="list-style-type: none"> 重点強化競技のオフシーズンの強化事業を推進し、国体強化を図る。 次代を担う若手指導者を県外の優秀チームや指導者に派遣し、計画的に資質の向上を図っていく。
<p>(3) 山形県スポーツタレント発掘事業</p> <p>オリンピックをはじめとする国際大会や全国トップクラスの大会で活躍する選手を輩出するため、ゴールデンエイジ(小学3～4年生)を対象に県内の優れた能力を備え持つ子供たちを発掘し、組織的・計画的に育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山形県スポーツタレント発掘事業「Y A M A G A T A ドリームキッズ」第1期生・第2期生(各30人)に対する育成プログラムの実施 第3期生30人を選考(応募数522人) 			<ul style="list-style-type: none"> 山形県スポーツタレント発掘事業については、選考会と育成プログラムの充実を引き続き図っていく。特に第1期生は中学生になるため、中学生用プログラムを構築する。

<p>(4) 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援 地域住民が、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、県内全市町村への総合型地域スポーツクラブの創設・育成へ向けて支援する。</p>	<p>県内5箇所の「広域スポーツセンター」における、総合型地域スポーツクラブの設立、運営や活動への支援と県民への周知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合型地域スポーツクラブ 設置市町村：35市町村 ・ 会員数：20,942人 	<p>概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 31市町村 ・ 20,225人 <p>平成23年度は1町で新たに設立され、3町で設立準備に入っている。</p>	<p>残りの未設立1町への創設と既設クラブの安定経営に向けて支援する。 また、クラブの安定経営の鍵となる会員確保に向け、マネジメントの研修や情報交換の場を提供してきており、今後も、さらに研修内容の充実を図っていく。</p>
--	--	---	--	--

(基本方針) 学校と地域を元気にする
 (重点施策)9 信頼され尊敬される教員を育てる

施策(事業)の概要	事業実施状況	目標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
(1) 研修研究事業 県教育センター等における教職員の研修 教育センター研修 指定研修、専門研修、長期研修、 訪問研修(カリキュラムサポートプラザ) 教育事務所研修 職域別研修(校長会、教頭会等) 教科・科目別研修会	<ul style="list-style-type: none"> 県教育センターのホームページにカリキュラムサポートプラザの項目を設け、トピック等も随時更新 「カリキュラムサポートプラザ」を窓口とし、出前サポート、来所サポート、資料提供サポートの三つの学校支援機能を揃えて、学校や教職員の研修ニーズにきめ細かく対応 	授業研究や学習指導を支援する「カリキュラムサポートプラザ」の利用数： 170件	達成 183件 出前サポートは、インターネット上から申込書をダウンロードでき、メールでの申込みを可能にするなど、使いやすさに配慮したことにより、利用数が増加。	今後は、研究成果を活かした研修コンテンツの充実を進める。
(2) 教職員健康管理事業 教育を担う教職員の心と体の健康増進のため、生活習慣病予防等対策及びメンタルヘルス対策を重点に、教職員の健康管理を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防対策として、人間ドックなど各種健診事業を実施 管理監督者のメンタルヘルス対応能力の向上を図るため、メンタルヘルスセミナーを実施 	管理監督者向けメンタルヘルスセミナーの新規参加者数：250人	概ね達成 232人 教育センターの新採校長、新採教頭研修及び教育事務所の管理者研修に組み込むなどにより、受講者の確保を図った。	管理監督者のメンタルヘルスに対する意識は定着しつつあるが、今後もセミナー未受講者解消に向け、各機関と協力しながら事業を実施していく。
(3) 山形大学教職大学院派遣事業 本県教職員のリーダーとなる人材を育成するため、山形大学教職大学院へ教員を派遣する。	本県教育課題の解決に寄与するとともに、本県教育をリードする教員を育成するために、現職教員としての資質の向上と指導力の充実に資する研修を実施	毎年10名の現職教員を山形大学教職大学院に派遣 (平成21年から)	達成 1年次10名 2年次10名 計20名を派遣	優秀な人材を派遣するために、山形大学教職大学院に派遣する教員の自己負担を減らし、候補者の選考の幅を広げていく必要がある。

(重点施策)10 安全・安心な教育環境を整備する

施策(事業)の概要	事業実施状況	目標	達成状況と評価	今後の対応・改善点等
<p>(1) 地域ぐるみの学校安全体制整備事業</p> <p>学校安全体制整備のため、学校安全ボランティア等の協力による効果的な安全体制を整備し、地域との連携を重視した学校安全に関する各種取り組みの実践を行う。</p> <p>また、県内全市町村が参加する連絡協議会を開催し、優良取組事例等の情報を共有しながら連携を強め、県内一円をカバーした学校安全体制の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの『いのち』を守る強化月間や防犯教育指導者研修会などで、学校保健安全法に基づく学校安全計画の確実な策定を周知するとともに、学校への継続的指導を実施 県内4箇所(村山・最上・置賜・庄内)で、防犯・防災の講習や情報交換等、学校安全ボランティアの資質向上を図る養成講習会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画(安全教育・安全管理・職員研修を盛り込んだ計画)の策定率(学校の安全管理の取組状況に関する調査): 小学校:100% 中学校:100% 高校:100% 特支校:100% 学校安全ボランティア養成講習会の開催: 県内4箇所 	<p>達成</p> <p>小学校:100% 中学校:100% 高校:100% 特支校:100%</p> <p>学校安全計画の策定とともに、避難場所の見直しなど学校安全管理マニュアルの見直しが図られた。</p> <p>達成</p> <p>4箇所講習会を通し、防犯・防災等の対応仕方等を含め、学校安全ボランティアの資質向上が図られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校保健安全法に基づく学校安全計画の見直しを周知し、児童生徒等の安全確保の徹底を図っていく。 今後も同講習会を実施し、通学路の恒常的な安全を確保していく。
<p>(2) 教師のゆとり創造・県立高等学校校務補助員配置</p> <p>教師の時間的、精神的なゆとりを生み出すとともに障がい者雇用の一層の推進を図る。</p>	<p>県立高等学校に校務補助員を配置し、印刷業務や資料整理等の仕事を補助</p>	<p>校務補助員の配置により、教師のゆとり創造に貢献: 県立高等学校16校に16名</p>	<p>達成</p> <p>県立高等学校に16名の校務補助員を配置し、教師のゆとり創造に貢献できた。</p>	<p>今後も、校務補助員の配置を維持・拡大し、教師が生徒と向き合う時間の確保に努める。</p>
<p>(3) 県立高等学校校舎整備等事業</p> <p>安全安心な教育環境を整えるため、県立高等学校の校舎等を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 酒田光陵高校校舎等整備 平成24年度開校に向けた校舎建築・産振備品整備等 酒田西高校定時制校舎等整備 平成24年度開校に向けた旧酒田西高校校舎の内部改修及び耐震改修工事等 村山産業高校(仮称)校舎等整備 産振校舎基本・実施設計等 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田光陵高校、酒田西高校定時制の開校に向けた施設・設備等の整備 村山産業高校(仮称)の産振校舎基本・実施設計等の実施 	<p>達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田光陵高校、酒田西高校定時制は計画通り事業を完了し、平成24年4月に開校 村山産業高校(仮称)は基本・実施設計を完了 	<p>今後も、安全・安心な教育環境を整えるため、校舎等の整備を行っていく。</p>

<p>(4) 教育活動充実支援員等配置事業</p> <p>教員の多忙化の要因と様々な課題に対応するため、学校に退職教員や経験豊かな社会人等を教育活動充実支援員として派遣し、教員をサポートすることにより、教員が児童生徒と向き合う時間の拡充を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学校が抱える課題に対応するため、退職教員や経験豊かな社会人等を教育活動充実支援員として派遣し、教員をサポートすることにより、教員が児童生徒と向き合う時間を拡充 県立特別支援学校長及び市町村教育委員会の計画書をもとに、発達障がいのある児童生徒等への対応、T T 指導外国語活動等の指導、I C T の活用等情報教育への支援、不登校児童生徒等への支援 	<p>支援員の配置：県内125校</p>	<p>達成</p> <p>県内125校に配置し、各学校の課題に応じて支援にあたることができた。</p>	<p>教育全般を対象とする支援員を配置してきたが、これまでの実績を勘案し、特別支援教育に焦点化した支援とする事業展開を図る。</p>
<p>(5) ネット被害防止スクールガード事業</p> <p>携帯電話などインターネット上で中傷するネットいじめなどのトラブルから子どもたちを守るため、その温床となる「学校裏サイト」「プロフ」などの検索・監視などを行い、問題行動の未然防止を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の非公式サイトや学校名の入ったプロフィールや掲示板などのサイトを検索・監視し、いじめ等につながる恐れがある書き込みなどは教育委員会と学校に報告し、サイト運営者への削除を依頼。 犯行予告、自殺予告等の緊急を要する書き込みについては、警察などへの連絡も併せて行う。 	<p>インターネットによるトラブルの未然防止</p>	<p>達成</p> <p>検索・監視により、生徒のネット使用状況が明らかになるとともに、生徒のネット利用に対し大人の関心が高まるなど、ネットトラブルの抑制に効果を上げている。</p>	<p>単に検索・監視に終わらず、当事業を通して、生徒のネット利用の適正化を促すことをめざし、各学校に情報の提供や指導を行っていく。</p>
<p>(6) 県立高等学校へのスクールカウンセラー派遣事業</p> <p>高校へのスクールカウンセラーの派遣が、生徒の相談活動に有用であることから、全高校にスクールカウンセラーを派遣することで、不登校や問題行動などの対応の充実を図る。</p>	<p>これまでの拠点校方式から、派遣回数の違いにより重点校（年間20回）と一般校（年間10回）とに区分して、全校にスクールカウンセラーを派遣</p>	<p>全ての県立高等学校へのスクールカウンセラーの派遣</p>	<p>達成</p> <p>生徒の心の悩みに応える機会の保障など生徒理解の充実、専門的知識に基づいたアドバイスや教職員との連携による教育相談活動の充実の他、不登校、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の充実に効果を上げている。</p>	<p>派遣回数の増加などの対応も考慮する必要がある。</p>

<p>(7) 高等学校奨学金貸与事業</p> <p> 勉学意欲がありながら、経済的理由により就学が困難な者を支援するために、奨学金の貸与を行う。旧日本育英会から移管された育英奨学金と、平成15年に国庫補助事業として開始された特別貸与奨学金からなる。</p> <p> (両奨学金とも無利子。貸与月額、公立高校生自宅通学の場合18,000円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育英奨学金貸与者数 1,522名 特別貸与奨学金貸与者数 144名 計 1,666名 ・ 返還金の預金口座振替納入制度の周知 ・ 奨学金システムによる貸与、返還状況の効率的な管理等 ・ 滞納者に対する迅速な督促、訪問による催告及び電話による催告の実施 	<p>奨学金制度の安定的な運用 (期限内収納率：100%)</p>	<p>概ね達成</p> <p>奨学金の貸与については、基準内の申請者を全員採用することができた。また、奨学金の返還については、期限内収納率が約80%程度であった。</p>	<p>奨学金の返還については、確実に返還されるよう引き続き滞納者に対する迅速な督促及び催告を行っていく。</p>
---	--	---------------------------------------	---	--

平成23年度教育委員会活動の自己点検・評価 達成状況一覧（平成24年3月末現在）

【達成状況】設定目標 38項目のうち 達成22、 概ね達成（8割以上）13、×：未達成 3 達成率：92%

（概ね達成を含む）

項目名	達成水準（目標）	達成状況	実績等
「いのち」を大切に、豊かな心と健やかな体を育てる			
1 家庭・学校・地域が連携して「いのち」をはぐくむ	(1) 「いのちの教育サポーター」等が学校や公民館等において、子どもと共に活動する回数：250回		276回
	(2) 「自分には良いところがある」と思う児童生徒の割合（県調査） 小学校6年生：79%、中学校3年生：71%		小6：81% 中3：68%
	(3) 家庭教育講座を実施している市町村数：35市町村		28市町村
	(4) 幼保小連絡協議会を開催している小学校の割合：84%		81%
	(5) ふれあい活動プログラムの開発：4地区		4地区
2 豊かな心と健やかな体を育てる	(1) 子ども読書活動推進計画を作成している市町村数：10市町村	×	7市町村
	(2) 不登校児童生徒出現率（学校基本調査）：0.97%		0.91%
	(3) 児童生徒の朝食欠食率 小学校6年生：7.9%（0.4%） 中学校3年生：10.9%（0.6%） は、全く朝食を食べていない児童生徒の朝食欠食率		小6：9.0% （0.2%） 中3：13.0% （0.8%）
	(4) 学校図書館機能の充実（県進連加盟校9校）		図書購入、備品の整備等
「まなび」を通して、自立をめざす			
3 関心と意欲を高め、能力を伸ばす	(1) 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（県調査） 小学校6年生：87%、中学校3年生：75%		小6：87.7% 中3：72.6%
	(2) 高校生の県内就職内定率（県調査）：77%		77%
4 特別な教育的ニーズに応じた「まなび」を支援する	(1) 「一人ひとりに応じた授業を実施している」と評価している保護者の割合（保護者アンケート）：90%		89.3%
	公立幼・小・中・高における「個別の指導計画」作成率：72%		79.1%
	(2) 「特別支援教育再編・整備検討委員会」の開催（3回）		知的障がい特別支援学校のあり方に係る意見集約
	(3) 現役医学部医学科合格者数：30人	×	13人

項目名	達成水準（目標）	達成状況	実績等
4 特別な教育的ニーズに応じた「まなび」を支援する	(4) 英検2級合格者数：300人以上 準2級合格者数：1,200人以上		英検2級：264人 準2級：1,294人
	(5) 受入事業所による生徒評価の「著しく向上した」、「向上した」が、以下の3項目で75%(3/4)以上 技術・技能 コミュニケーション 礼儀・マナー等		農業 水産 工業 73% 75% 91% 91% 75% 91% 91% 78% 91%
	(6) 特別支援教育支援員の個別支援による、落ち着いた学校生活の実現		学校全体への波及効果に係る高評価
5 時代の進展に対応した学校づくりを進める	(1) 特別支援学校の取組みについて、学校評議員等の評価を踏まえた校長による学校評価 A・B評価：70%以上の学校 C評価（概ね満足）以上：全ての学校		A・B評価：41.7% C評価以上：100%
	(2) 県立高校の取組みについて、学校評議員等の評価を踏まえた校長による学校評価 A・B評価：70%以上の学校 C評価（概ね満足）以上：全ての学校		A・B評価：54.2% C評価以上：95.8%
	(3) 地域説明会でのアンケートで「（概ね）理解した」と回答した割合：80%		田川地区事前説明会(5月)：82% 田川地区中間報告書説明会(2月)：86%
	(4) 平成24年度の入学定員(酒田光陵高等学校)の充足率：100%		94.5%
広い「かかわり」の中で、社会をつくる			
6 人とのつながりの中で社会力を育成する	(1) Y Y ボランティア活動参加者数：2,000人		2,124人
	(2) 「放課後子ども教室」、「放課後児童クラブ」のいずれかが設置されている小学校区の割合：79%		80.5%
7 地域文化が活きる人間性豊かな社会をつくる	(1) 山形ふるさと塾活動賛同団体：270団体		271団体
8 活力ある健全な社会づくりに貢献するスポーツを振興する	(1) 国民体育大会天皇杯順位：20位台	×	42位
	(2) 総合型地域スポーツクラブ設置市町村：35市町村 会員数：20,942人		31市町村 20,225人
学校と地域を元気にする			
9 信頼され尊敬される教員を育てる	(1) 授業研究や学習指導を支援する「カリキュラムサポートプラザ」の利用数：170件		183件
	(2) 管理監督者向けメンタルヘルスセミナーの新規参加者数：250人		232人
	(3) 現職教員を山形大学教職大学院に派遣：毎年10名		1年次10名 2年次10名

項目名	達成水準（目標）	達成状況	実績等
10 安全・安心な教育環境を整備する	(1) 学校安全計画（安全教育・安全管理・職員研修を盛り込んだ計画）の策定率（学校の安全管理の取組状況に関する調査） 小学校 : 100% 中学校 : 100% 高等学校 : 100% 特別支援学校 : 100%		小学校 : 100% 中学校 : 100% 高校 : 100% 特支校 : 100%
	学校安全ボランティア養成講習会の開催 : 県内4箇所		県内4箇所
	(2) 校務補助員の配置により、教師のゆとり創造に貢献 : 県立高等学校16校に16名		16校に16名の配置
	(3) 酒田光陵高校、酒田西高校定時制の開校に向けた施設・設備等の整備 村山産業高校（仮称）の産振校舎基本・実施設計等の実施		酒田2校は計画通り平成24年4月に開校 村山産業高校（仮称）は基本・実施設計を完了
	(4) 教育活動充実支援員の配置 : 県内125校		125校
	(5) インターネットによるトラブルの未然防止		ネットトラブルの抑制に効果
	(6) 全ての県立高等学校へのスクールカウンセラーの派遣		生徒の心の悩みに応える機会の保障等
(7) 奨学金制度の安定的な運用（期限内収納率 : 100%）		約80%程度	

平成23年度 教育庁の主要施策体系 (教育委員会の事務の点検・評価)

< 基本方針等 >

< 重点施策 >

< 事業 >

「いのち」を大切に、豊かな心と健やかな体を育てる	1 家庭・学校・地域が連携して「いのち」をはぐくむ	(1) 「いのちの教育」推進事業 (2) 児童生徒の輝く「いのち」実践推進事業 (3) 家庭教育推進事業 (4) 幼保小連携推進事業 (5) 幼児共育推進事業
	2 豊かな心と健やかな体を育てる	(1) 読書活動総合推進事業 (2) 生徒指導・相談体制の充実 (3) いのち輝く食育推進事業 (4) 県立高等学校図書館機能充実事業 (5) 各種体育大会 (6) 運動部活動サポート・モデル事業
「まなび」を通して、自立をめざす	3 関心と意欲を高め、能力を伸ばす	(1) 少人数学級編制等推進事業 (2) キャリア教育推進事業
	4 特別な教育ニーズに応じた「まなび」を支援する	(1) 特別支援教育推進事業 (2) 特別支援学校再編・整備検討事業 (3) 医師人材育成推進事業 (4) 国際化推進事業 (5) 山形県産業担い手育成プロジェクト事業 (6) 県立高等学校特別支援教育推進事業
	5 時代の進展に対応した学校づくりを進める	(1) 特色ある特別支援学校づくり推進事業 (2) 特色ある高校づくり推進事業 (3) 県立高等学校将来構想推進事業 (4) 酒田光陵高校（仮称）開校準備
広い「かかわり」の中で、社会をつくる	6 人とのつながりの中で社会力を育成する	(1) 地域青少年ボランティア活動推進事業 (2) 放課後子どもプラン推進事業 (3) 学校支援地域本部事業 (4) 山形青年交流事業
	7 地域文化が活きる人間性豊かな社会をつくる	(1) 「山形の宝」育成事業 (2) 山形ふるさと塾推進事業 (3) 文化財保護事業 (4) 博物館活動整備事業 (5) 博物館収蔵資料整理事業 (6) 地域資源のデジタル化推進事業
	8 活力ある健全な社会づくりに貢献するスポーツを振興する	(1) 競技スポーツ強化 (2) 競技スポーツパワーアップ特別強化事業 (3) 山形県スポーツタレント発掘事業 (4) 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援
学校と地域を元気にする	9 信頼され尊敬される教員を育てる	(1) 研修研究事業 (2) 教職員健康管理事業 (3) 山形大学教職大学院派遣事業
	10 安全・安心な教育環境を整備する	(1) 地域ぐるみの学校安全体制整備事業 (2) 教師のゆとり創造・県立高等学校校務補助員配置 (3) 県立高等学校校舎整備等事業 (4) 教育活動充実支援員等配置事業 (5) ネット被害防止スクールガード事業 (6) 県立高等学校へのスクールカウンセラー派遣事業 (7) 高等学校等奨学金貸与事業 (8) 少人数学級編制等推進事業（再掲） (9) 生徒指導・相談体制の充実（再掲）

右の<事業>のうち、下線部が点検・評価の対象事業等